

さかた環境ワークショップ
報告書

2024（令和6）12月

酒田市

目次

1. ワークショップの概要.....	1
1.1. 実施の目的.....	1
1.2. 参加メンバー.....	1
1.3. 開催の経過.....	1
2. ワークショッププログラム概要.....	2
3. 第1回ワークショップ.....	3
4. 第2回ワークショップ.....	6
5. 具手的な提案やキーワード.....	10
6. ワークショップでの結果を受けて.....	10

1. ワークショップの概要

1.1. 実施の目的

「第3次酒田市環境基本計画」の策定にあたり、市民の意識やニーズ、意見を把握し、計画の目指す方向性や施策・取組の検討に資するとともに、計画推進の段階では取組を効果的に実施するための参考資料とするために実施したものである。

1.2. 参加メンバー

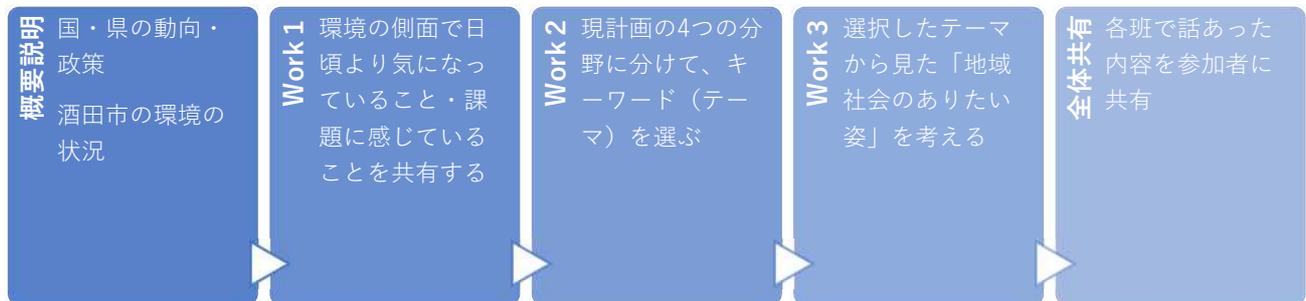
- (1) 市内在住・在職・在学の方を対象に市広報（酒田市広報「私の街さかた」2024.5.1）等による募集
- (2) 無作為抽出した市民500人へワークショップへの参加案内を直接郵送し募集
- (3) 応募内容
 - ①一般公募 12名
 - ②東北公益文科大学学生等 10名

1.3. 開催の経過

回	内容・テーマ
第1回 【日時】R6.6.8（土） 13:30～17:00 【場所】酒田市総合文化センター410・411号室	○主催者あいさつ ○講話：「環境基本計画とは、国・県の環境行政、温暖化対策など」 講師 東北芸術工科大学三浦秀一教授 ○説明：酒田市の環境について（酒田市環境衛生課） ○ワークショップの概要説明 ○テーマ： ①「環境面から見た地域社会（酒田市）のありたい姿」を考えよう ②私が思う「環境面から見た地域社会（酒田市）のありたい姿」 ■参加者数：20人
第2回 【日時】R6.7.6（土） 13:30～16:30 【場所】酒田勤労者福祉センター多目的ホール	○前回の振り返り ○ワークショップの概要説明 ○テーマ： ①「環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組み」を考えよう ②環境面で地域社会（酒田市）のために私ができること ■参加者数：23人
第3回 【日時】R6.9月上旬 【場所】酒田市総合文化センター	➤令和6年7月25日からの大雨に伴う災害が発生したことにより中止（全2回で完結）

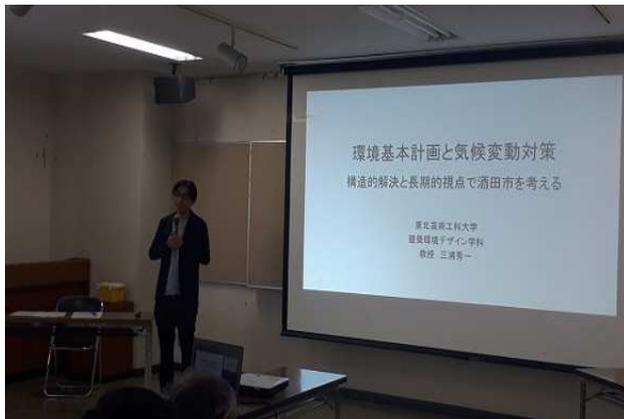
2. ワークショッププログラム概要

第1回テーマ 「環境面から見た地域社会（酒田市）のありたい姿」を考えよう



【講義】「環境基本計画と気候変動対策 構造的解決と長期的視点で酒田市を考える」

講師：東北芸術工科大学建築環境デザイン学科 三浦秀一教授

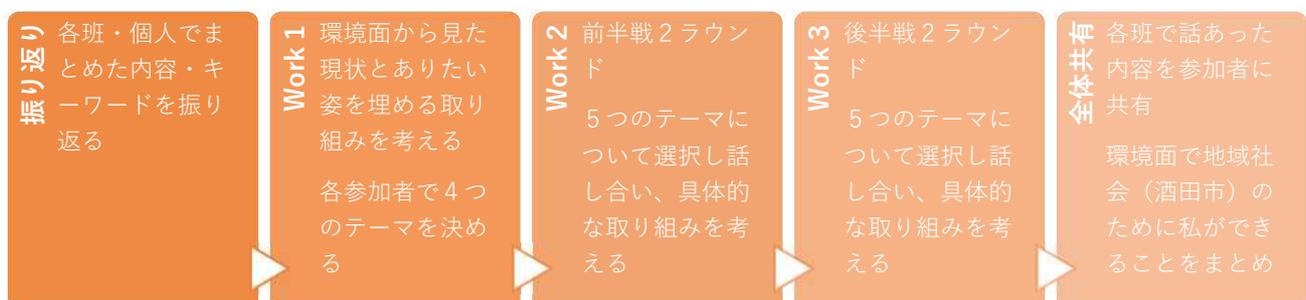


第1回 三浦教授による講義の様子



第1回 講義聴講の様子

第2回テーマ 「環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組み」を考えよう



3. 第1回ワークショップ

■第1回のワークショップでは、環境基本計画とはどういうものか、国・県の環境行政の動向（気候変動対策を中心）、酒田市の環境の状況についてインプットを簡単に行い、ワークショップの進め方について説明しました。

■「環境面からの見た地域社会（酒田市）のありたい姿」について、各個人で書きだし、現計画の4つの目標に分けて、参加者同士で話し合いをしました。

- 1 「身近な環境」に関する目標（美観保持、騒音悪臭の防止、動物の管理）
- 2 「資源利用」に関する目標（省資源、循環型社会の形成）
- 3 「自然環境」に関する目標（豊かな自然の保護と活用）
- 4 「地球環境」に関する目標（地球温暖化対策・再生可能エネルギーの普及推進）

■参加者同士の話し合いで出し合ったキーワード（テーマ）の中からいくつか選んで、そのテーマから見た「地域社会のありたい姿」を各班で考えました。

■各参加者（私）が思う「環境面から見た地域社会（酒田市）のありたい姿」にまとめ、お互いに紹介しました。

■第1回ワークショップの様子等



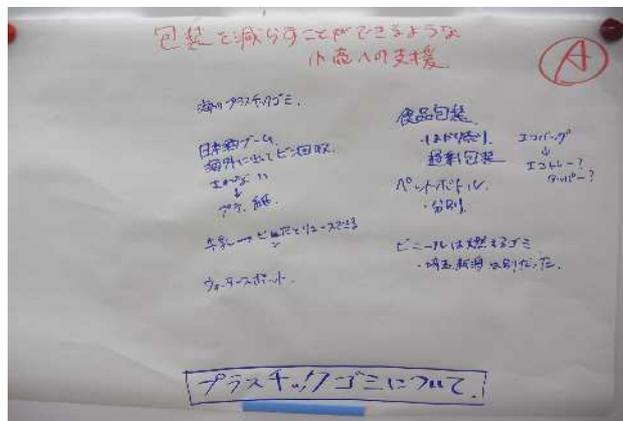
概要説明



各班グループワーク



Work 2 の例



Work 3 の例

■第1回ワークショップにおける市民意見・キーワード

基本目標の分類	テーマ	ありたい姿	手段（と思われるキーワード）	その他キーワード
1 身近な環境	美しい地域づくり	①市民のゴミに対する意識の向上 ②美しい景観を守り、維持		・地域ぐるみでの協力
2 資源利用	ごみ処理	便利なサービスの広報	①QRコード ②分別ルールのLINE ③ゴミ箱の設置（悪臭対策）	・分別ルールのLINEを知らない人が多い ・ゴミ処理費用（説明不足では？） ・3R
2 資源利用		安心して快適な美しい地域	①プラスチックと燃えるごみの分別によりリサイクルに回すことができる。 ②ペットボトルのキャップをトイレトペーパーにリサイクル	・側溝清掃をしていないため匂うところがある
2 資源利用	プラスチックゴミ	プラスチックゴミをさらに減らす	①マイトレイ・マイ容器を持ち歩く ②酒田産木材の利用（おもちゃ、景品、メダル等）	・食品の過剰包装 ・プラスチック製品から酒田産木材の利用
2 資源利用	プラスチックゴミ	プラスチックゴミのリサイクル	①紙や衣類へリサイクル ②なんでもかんでもすぐに燃やさない	・プラスチック（ペットボトルなど）がもっと多くの物にリサイクルしている姿
2 資源利用	プラスチックゴミ	包装を減らすことができるような小売への支援	①はかり売りの取り組み ②ペットボトル分別の徹底 ③エコパック（エコトレイ、タッパー）の利用 ④牛乳パックのリユース	・食品包装 ・過剰包装 ・海のプラスチックゴミ ・日本酒ブーム（海外に出されたビンは回収されていない） ・ビニールは燃えるごみ（埼玉、新潟は別だった）
3 自然環境	海洋ごみ	海洋ゴミ0を目指す	①ごみを減らす ②集めたごみの再生（プラスチックリサイクル）	・市民の応援、協力 ・マイクロプラスチック ・ブルーカーボン ・食、安全安心 ・公益大（人材、お金、とりくみ） ・県内全域で実施 ・最上川からごみが流れてくる ・生態系
3 自然環境	自然の保持	山・海・野原の整備、活用を皆で協力して行う	①教育の中で取り入れて、酒田の自然の価値を教える（授業にも取り入れる） ②ネイチャーレジャーを取り入れる	・ボランティアも良いが「有料」での実施も考える
3 自然環境	最上川と海の環境保全	①豊かな水の再生 ②漁業をつくる	①ブルーカーボン ②サクラマスの増殖	・最上川（源流から河口）
4 地球環境	自動車	自動車からのCO2を減らす	①助け合い（乗せてもらう） ②バスを利用	
4 地球環境	自動車のCO2排出	公用車、るんるんバスのEV・水素エネルギーの転換	①インフラの整備（充電設備、水素ステーション） ②市民への自動車導入補助	
4 地球環境	自動車	自動車を環境配慮に変えて安全な市	①電気自動車、ハイブリッド車に補助金	・若者も車の運転に不安がある方
4 地球環境	電気自動車	①（電気自動車を）所有・維持しやすい制度 ②街中での充電設備の整備	①充電設備への補助金 ②2台目で電気自動車が買やすい補助金 ③庁舎、ガソリンスタンドでの充電設備の整備	・市内で出てきた「わからない」や「悩み」を友達感覚でLINEで即解決に導いてもらえる状況 ・地域住民の声をリアルに反映
4 地球環境	再生可能エネルギー	酒田市の発電量で全て市民の電力消費がまかなえる	①市民意識の向上（出来ることから始める） ②ゴミを少なくする ③自転車を利用	
4 地球環境	二酸化炭素	二酸化炭素の削減	①徒歩での移動 ②るんるんバスの利用 ③ポイントの付与と市内での利用	・仕事をしていない人は、基本徒歩でガンバル（年配者の免許返納） ・るんるんバス、図書館等の公共施設のエアコン利用時の適温を職員間で学び徹底 ・物を捨てる前に再度考え、無駄をなくす
4 地球環境	再生可能エネルギー	再生可能エネルギーの推進	①新築住宅への太陽光パネルの設置義務化 ②風力発電の促進	・再エネの促進 ・建設会社の産業の創出 ・（風力発電で）太陽光発電の補完（夜、冬期間のカバー）
4 地球環境	電気自動車	電気自動車の普及	①電気自動車補助金 ②インフラ（充電設備）の普及	・通学で自転車に乗れないとき自動車になる ・バスがもっと使いやすければCO2削減（るんるんバス） ・大学通学は車
4 地球環境	電気自動車	①安心して走れる環境 ②充電しやすい環境	①自動車のルールづくり ②充電設備の補助金	・生活に必要な（近場の買い物） ・2台目として電気自動車なら使える ・自転車が歩道走る（怖い（運転乱暴））
4 地球環境	二酸化炭素	二酸化炭素の発生が少ない生活		・車で移動しないこと（徒歩、自動車） ・徒歩で移動することへの特典（ポイント）があればいい ・自転車に乗ろう
そのほか	街づくり	住み続けたいと思うまち	①交通の便を良くする ②豊かな食文化を維持する	・安心、安全に暮らせる ・市民一人一人の幸福（不安や困り事への対応）を考える ・まずは大人がやる
そのほか	街づくり	①今後2050年への新都市計画 ②再生可能エネルギーのまちづくり		・酒田大火より復興した酒田の凋落（中心市街地、空き家） ・太陽の家を太陽のまちへ
そのほか	街づくり	空き家・空き店舗がない		・景観が良くなる
そのほか	広報	酒田市全広報LINE化計画	①LINEの登録者数を増やす	
そのほか	食べものにかかわる環境	食が豊かで安心・安全	①貧困フードバンク	・ウェルビーイング ・ラーメン、そば ・耕作放棄地 ・太陽光利用した温室栽培 ・海の豊かさー漁業

出された「ありたい姿」を分類し、第2回の「テーマ」を構成

□第2回ワークショップに向けてのテーマ分け

第1回ワークショップで出された「ありたい姿」
<ul style="list-style-type: none"> ・自動車からのCO2を減らす ・公用車、るんるんバスのEV・水素エネルギーの転換 ・自動車を環境配慮に変えて安全な市 ・(電気自動車を)所有・維持しやすい制度 ・街中での充電設備の整備 ・二酸化炭素の削減 ・電気自動車の普及 ・(電気自動車が)安心して走れる環境 ・充電しやすい環境 ・二酸化炭素の発生が少ない生活
<ul style="list-style-type: none"> ・美しい景観を守り、維持 ・空き家・空き店舗がない
(追加項目)
<ul style="list-style-type: none"> ・安心して快適な美しい地域(プラごみと燃えるごみの分別によりリサイクルに回す) ・プラスチックゴミをさらに減らす ・プラスチックゴミのリサイクル
<ul style="list-style-type: none"> ・漁業をつくる ・住み続けたいと思うまち(豊かな食文化を維持する) ・食が豊かで安心・安全
<ul style="list-style-type: none"> ・酒田市の発電量で全て市民の消費電力がまかなえる ・再生可能エネルギーの推進 ・再生可能エネルギーのまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱の設置(悪臭対策)
<ul style="list-style-type: none"> ・市民のごみに対する意識の向上 ・包装を減らすことができるような小売への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ゴミ0を目指す ・山・海・野原の整備、活用を皆で協力して行う ・豊かな水の再生
(追加項目)

第2回ワークショップの「テーマ」
<p>①脱炭素・低炭素 二酸化炭素の発生が少ない酒田市へ</p>
<p>②外面の様子 安全で美しい酒田市へ</p>
<p>③動物愛護・管理 動物の管理が適正な酒田市へ</p>
<p>④資源の循環 リサイクルで資源を循環する酒田市へ</p>
<p>⑤食料システム 環境負荷の少ない食料地産地消の酒田市へ</p>
<p>⑥再生可能エネルギー 再生可能エネルギー地産地消の酒田市へ</p>
<p>⑦騒音、悪臭 騒音、悪臭のない酒田市へ</p>
<p>⑧廃棄物の削減 ゴミを最小化する酒田市へ</p>
<p>⑨自然環境 きれいな海、川、水、里山の酒田市へ</p>
<p>⑩環境教育 環境教育が充実した酒田市へ</p>

4. 第2回ワークショップ

■第2回のワークショップでは、第1回で各班・個人でまとめた内容・キーワードについての振り返りを行い、ワークショップの進め方について説明しました。

■「環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組み」について、各個人で前半戦・後半戦それぞれについて2つテーマを選択（計4テーマ選択）して書きだし、参加者同士で話し合いました。

【前半戦テーマ】①二酸化炭素の発生が少ない酒田市へ、②安全で美しい酒田市へ、
③動物の管理が適正な酒田市へ、④リサイクルで資源を循環する酒田市へ、
⑤環境負荷の少ない食料地産地消の酒田市へ

【後半戦テーマ】⑥再生可能エネルギー地産地消の酒田市へ、⑦騒音、悪臭のない酒田市へ、
⑧ゴミを最小化する酒田市へ、⑨きれいな海、川、水、里山の酒田市へ、
⑩環境教育が充実した酒田市へ

■前半戦・後半戦の各5テーマをさらに2つに分け、「行政」「企業」「地域」「個人」が取り組む考え・アイデアを書きだしました。

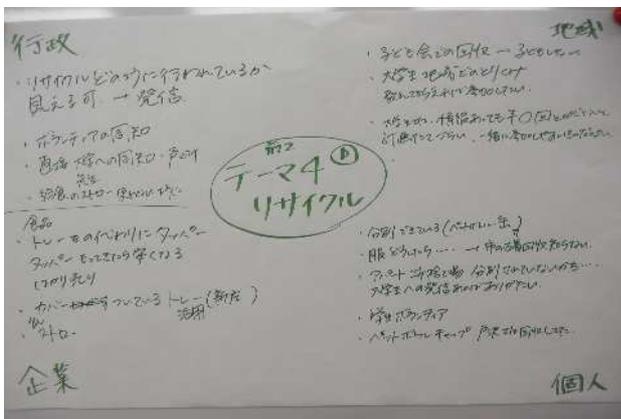
■第2回ワークショップの様子等



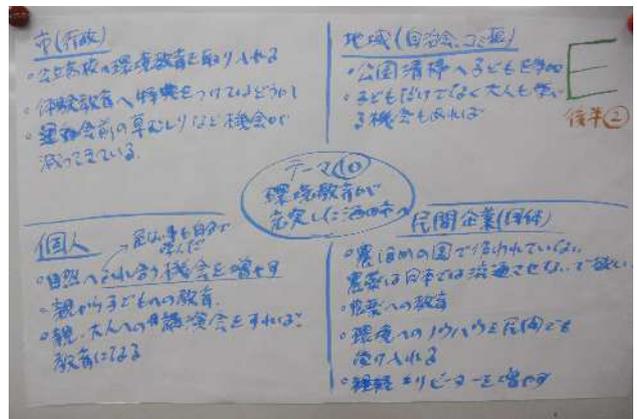
概要説明



各班グループワーク



Work 2 の例



Work 3 の例

■第2回ワークショップにおける市民意見・キーワード

【WSの内容】環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組みを考えよう

(前半戦の5テーマ)

テーマ	各主体における「環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組み」			
	市	企業	地域	市民
① 脱炭素・低炭素 二酸化炭素の発生が少ない酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設28度（適正温度の確認、広報などで周知） るんるんバスの利用者への特典（クーポン券など） 電気自動車への補助金 植物を増やす 再生可能エネルギーの普及 エネルギー教育（研究機関の創設など） 道路の整備 熱を遮断する仕組み（高気密、高断熱化）への補助金 			<ul style="list-style-type: none"> 自動車の乗り合い 自動車以外の移動手段（バス、電車、自転車、徒歩など） LEDへの交換 太陽光パネルの設置
② 外面の様子 安全で美しい酒田へ	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の管理をする 美化活動の出前講座 美化活動への参加の呼びかけ ゴミ箱を増やす 声かけ、PR 隣地の木の伐採を許可する 空き家をリノベーションして、移住者向けに 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生と一緒に空き家の活用 空き家の利活用 外の人の視点を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミステーションのカラス対策 観光地（寺社）の清掃 一人でごみ出しができない高齢者をフォローする体制 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化活動サークルをつくる
③ 動物愛護・管理 動物の管理が適正な酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> 避妊・去勢手術への助成 草刈りなど環境の管理 狸の育成について補助 街路樹を増やす 多頭飼育になる原因説明 鳥獣保護法改正（カラス） 	<ul style="list-style-type: none"> ブリーダー等の待遇改善 	<ul style="list-style-type: none"> 猫の保護 鳥類やクマの捕獲 草刈りなど環境の管理 空き家の管理 地域猫活動 カラス警告音を鳴らす ゴミステーションの管理 	<ul style="list-style-type: none"> 避妊去勢手術の実施 ペットの排泄物の処理 飼い主のマナー、ルール、モラルの再確認 多頭飼育にならないようにルール（モラル）を守る 野良猫に餌をあげない 飼い主のマナーの改善 ポイ捨てをしない
④ 資源の循環 リサイクルで資源を循環する酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> 市からのアナウンス（ごみ排出量の多さ） どのようにリサイクルされているのか周知 排出量が多い理由の説明 ビニール類の分別 サーキュラーエコノミー リサイクルの見える化 ボランティアの周知 直接大学への周知、声掛け 給食のストローを使わないように 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル業者がまわってこない（他市ではやっていた） ペットボトルリサイクル 紙のリサイクルが、採算あわない 食品トレーの代わりにタッパーを使用 カバーがついているトレーを使用（新庄市） ストロー 	<ul style="list-style-type: none"> 紙、古着等の回収（収入を町内会費に充てるのはどうか） 子ども会での資源回収（子供減で取り組みが減っている） 大学生の地域での取り組み 大学生が参加しやすいように 	<ul style="list-style-type: none"> 分別への意識 リサイクル製品を買う意識 プラごみ捨てられるのは、家事が楽にはなる 市の古着回収を知らない アパートのゴミ捨て場は、分別がされていない事が多いので、大学生への分別情報の発信 学生ボランティア ペットボトルキャップを戸沢村では回収していた
⑤ 食料システム 環境負荷の少ない食料 地産地消の酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> 有機、無農薬の生産者への補助金 無農薬野菜の広報活動 若い生産者、人材の育成（農業体験） 耕作放棄地を市が管理 酒田産を市外へアピール 	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク、フードパントリー こども食堂 保育園へ食育 産直施設を増やす 太陽光を使用し自家発電 傷みにくい食品でアピールし、食品ロスをアピール こども食堂にて余った食材を使う 塩水を使って食品を作る（魚しょう、塩辛） こども食堂で地元の味に触れてもらう 鮭の卵（いくら）は、食べたり産卵にまわす、身はさけぶしにすることもできる 	<ul style="list-style-type: none"> 農業と畜産 耕作放棄地を地域が管理（移住者でも） 	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消 地元のものを買う 食べきれないものは冷凍 農業のイメージを変える（服装、勤務時間など） 食品を冷凍 食材にする前に捨てる 野菜をスーパーではなく、畑で収穫して調達する

(後半戦の5テーマ)

テーマ	各主体における「環境面から見た現状とありたい姿を埋める取り組み」			
	市	企業	地域	市民
⑥ 再生可能エネルギー 再生可能エネルギー地 産地消の酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> ・発電施設をもっと低コストで建設 ・活用できる施設を(木質バイオマスなど) ・太陽光パネルに対しての補助金の増額 ・風力発電の災害対策と責任の所在をはっきりさせる ・空き家の解体で出た木材をバイオマスへ利用できないか ・太陽光パネルと景観の問題 ・発電施設をもっと知る必要がある ・様々な再エネの可能性を模索 ・受光しやすい都市計画を ・都市計画の中に災害再エネの視点を 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキュート(次世代型) 		
⑦ 騒音、悪臭 騒音、悪臭のない酒田 市へ	<ul style="list-style-type: none"> ・うるさいバイクを何とかするルールづくり ・防音の基準制定 ・空き家、どぶそうじ ・大きい車が通ると揺れるアパート→建築基準を厳しくする ・南陽市ではゴミステーションを倉庫のような建物にしている ・下水の臭いが強い場所の点検 ・出前講座 		<ul style="list-style-type: none"> ・キンモクセイなどの季節の木や花を植える 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣への配慮、思いやり、コミュニケーション
⑧ 廃棄物の削減 ゴミを最小化する酒田 市へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミについて情報発信(LINEなど) ・ゴミのリサイクル情報 ・市が生ごみを集めて肥料化し販売する ・埋め立て処理場についての数値(市民の負担)を情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを増やさないための食べ方(レンジ)を広める ・ゴミ袋(小)をもっと増やす ・捨てないで次の人に使ってもらう仕組み ・飲食店でおしぼりを紙ではなく布の利用へ ・残したものをテイクアウトできるように ・包装を簡潔に ・量り売りをする努力 ・マイトレ ・プラのものを木(酒田産)のものに ・リサイクルできるものを販売 ・廃棄するような食材を消費者へ届ける仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋に名前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミについてもっと知る ・ゴミ排出量について他の自治体と競う ・ゴミに責任を(名前を書く) ・作りすぎない、残さない ・購入するときに必要なものか考える ・あるもので代替できないか ・ゴミを減らす方法などを共有 ・マイカトラリー(スプーン、フォーク)の習慣を ・リサイクルできるように知識を身につける
⑨ 自然環境 きれいな海、川、水、 里山の酒田市へ	<ul style="list-style-type: none"> ・里山、クマ対策、川の清掃 ・木の伐採に対しての補助金 ・里山でアクティビティ ・海岸漂着ごみを機械で回収(鶴岡市) ・杉林を雑木へ ・杉の活用 ・松枯れ対策 ・海岸ゴミ処理の補助金 ・海洋教育 ・海岸ゴミ集め大会 ・環境教育(イベントなど) ・川ゴミは上流市町村の問題でもあり市から問題提起してほしい→大学の研究テーマでもいいかも(縦割りにしない仕組み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・花粉が出にくい杉の開発 ・山の手入れをしてほしい ・機械のリース、作業のお願い ・海ごみを再利用して商品化し興味関心の喚起 ・ゴミ回収のための技術開発 ・ゴミ回収大会の主催(企業イメージアップ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・山菜取りを、他の地域の人も参加しやすい仕組みにすることで、里山保全につなげる ・古民家カフェ ・ボランティア ・里山の交流人口を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗剤を使わない、イオン水で洗う ・環境への意識 ・高齢者、子供、大人、学生のそれぞれに合った啓発 ・ゴミ拾い
⑩ 環境教育 環境教育が充実した酒 田市へ	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧川の生物観察をほかの学校でも実施 ・鳥海山の観察、登山、水の恵みの教育 ・農業、畜産体験(中学高校でもあってよいのでは) ・公立高校へ環境教育を取り入れる ・体験教育への特典を付ける ・運動会前の草むしりなどの機械が減ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、大学から受けた教育を小学生に教える(ESD教育)機会が少ない ・コクヨがリサイクルした紙をノートに製本していた ・東北エプソンペーパーラボ ・農業を使わないように ・農業への教育 ・リピーターを増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについてなど大人が学べる機会があってもよい ・環境に配慮したものを購入 ・自然と触れ合う機会を増やす ・親から子供への教育 ・親、大人への講演会をすれば教育になる 	

【WS の内容】 環境面で地域社会（酒田市）のために私ができること を考えよう

- ・ 小さなボランティア活動に参加して地域の人との関係を深め、互いに酒田市を見つめ直す
- ・ 今までの生活を見直す（車移動、食品）
- ・ 今日初めて知る酒田市の現状が多くあったので、行動に移せるよう自分の住んでいる地域のことを知る
- ・ 環境に興味をもつこと！環境を知ること！できることから始めること！
- ・ 物品を購入する時は、本当に必要か再考する、又、廃棄する時は再利用出来ないか再考する
- ・ 省エネの為に自宅の適温管理（しっかり学び安全な温度）し、公共施設などにも提案する
- ・ ゴミを出す時の分別
- ・ 地域の緑化・美化活動に友達を誘いながら参加する
- ・ 緑化・美化活動、ボランティアに多く参加する
- ・ 騒音問題は注意する。思いやりが大切
- ・ 生ごみなどの悪臭の原因は、新聞紙に包むなど自分で対処する
- ・ 地域でお互いに思いやりを持って生活をする（騒音、溝掃除、空き家見守りなど）
- ・ SDGs を胸に環境に良いと思うもののメリット・デメリットを学習し、時に導入しながら、日々の買い物に一生懸命とりくむ！
- ・ 太陽光パネル、電気自動車等のメリット・デメリットは自分でも調べること
- ・ 地域の環境をよくするために近隣の住民を”助け合いの精神“は忘れずに
- ・ 大学生という比較的時間のある今に今回のような WS に参加し、多くの人の思いや考え方を知り、それを広めていくことだと思う。
- ・ 地域のもの（海・山・田）をたくさんたべる
- ・ 体験した事・情報を家族・友人に話す
- ・ すぐできること（食事を作りすぎない、お買い物は本当に必要か考える）
- ・ 環境に対してアンテナをはっておく
- ・ ワークショップなどに積極的に参加し現状を知る
- ・ ボランティアなどに参加する
- ・ 一緒に取り組む仲間づくり
- ・ 環境教育、SDGs 教育の普及
- ・ エネルギーに関する科学教育の実施
- ・ 地域清掃などのボランティア活動への参加
- ・ SDGs 教育をしっかり受けて自分にできることについて日々考える・意識する
- ・ ワークショップなどに積極的に参加することで自分ごととしての意識をもつ
- ・ ごみの分別を心がける
- ・ 子どもにごみの分別の仕方を教える
- ・ ムダな買い物をしない
- ・ 良く考えながら行動に移す
- ・ 近所、知り合いとも話し合う
- ・ 日頃から節電を心がける
- ・ 食べられる量を購入し、フードロス削減
- ・ なるべく酒田市で生産された食材を購入する
- ・ ロスが少なくなるようにし、余った食品はフードバンクなどに寄付する
- ・ 環境に配慮した商品を購入する
- ・ 日頃から環境に対する意識をもち、環境保全活動に積極的に参加する

5. 具手的な提案やキーワード

テーマ	提案内容・キーワード
二酸化炭素の発生が少ないまち	公共交通機関の利用促進（るんるんバスの利用に特典付与）
	エネルギー教育の実施（メリット・デメリットを知る機会を設ける）
	高気密・高断熱化の補助金の拡充
安全で美しいまち	大学生と一緒に空き家の活用
	一人でゴミ出しができない高齢者等をフォローする体制
動物の管理が適正なまち	猫の不妊・去勢手術の充実と確実にできる方法
リサイクルで資源を循環するまち	リサイクルの見える化の発信（どのように行われているかの周知）
環境負荷の少ない食料 地産地消のまち	地産地消
再生可能エネルギー地 産地消のまち	再エネの地元での活用
ゴミを最小化するまち	生ごみを増やさないレシピの普及
	量り売り・マイトレイの普及
	ごみ情報の発信（ごみを減らす方法を市民間で共有）
きれいな海、川、水、里 山のまち	海岸ごみの処理への補助
	川ごみ問題の全県的な提起
環境教育が充実したまち	SDGs について大人が学べる機会の創出
	自然へふれあう機会を増やす・体験教育への特典を設ける

6. ワークショップでの結果を受けて

ワークショップ参加者から出た意見やキーワードを、今後策定する第3次酒田市環境基本計画に取り入れながら、市民アンケートの結果も合わせて、市民のウェルビーイング向上を目指した施策につなげることができる計画の検討を行っていきます。